

(素案)

港区社会福祉協議会

第4次港区地域福祉活動計画

つながり・学び・支え合い・輝く
—私にできること ワタシが創るみなと—

計画期間

平成31年度～平成35年度



計画の内容

第4次港区地域福祉活動計画では、「つながり・学び・支え合い・輝くー私にできること ワタシが創るみなとー」という計画理念に基づいて、「つながり・交流」、「活躍の場づくり」、「生活課題の解決」、「風土づくり」の4つの部会をつくり、それぞれを「知り合ってミーナ」、「輝いてミーナ」、「解決してミーナ」、「学び合ってミーナ」と名付けました。

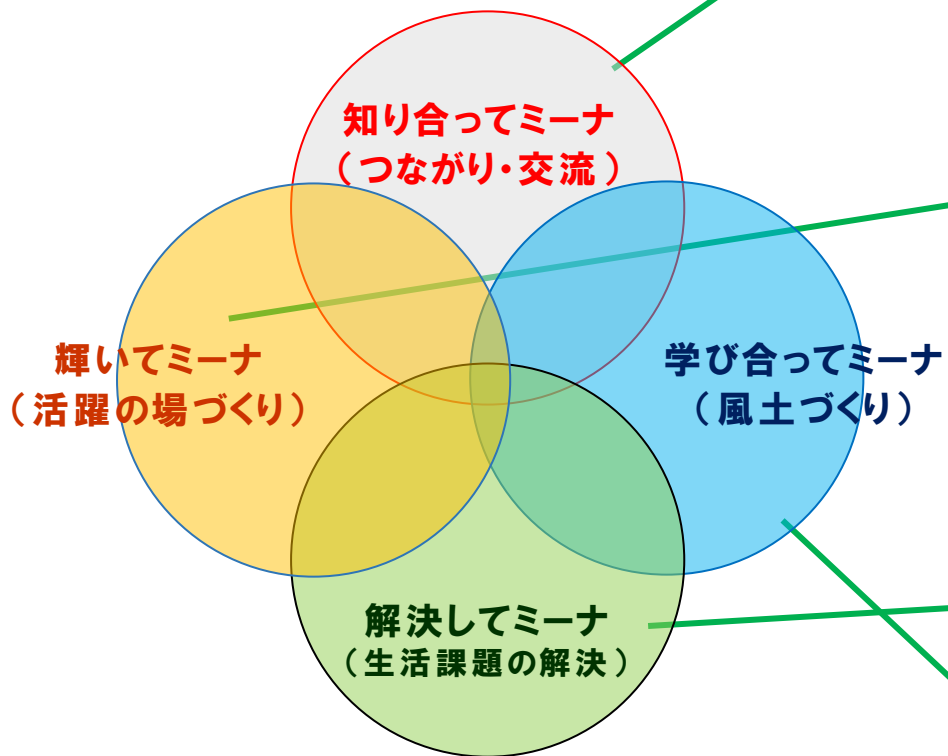
これらの部会はそれぞれが独立しているのではなく、下図のようにそれぞれが連携（重なりあう部分）して計画を推進していきます。

また、4つの部会で共通して検討が必要な項目として「孤立防止」と「防災」を挙げています。

計画理念

つながり・学び・支え合い・輝く
私にできること ワタシが創るみなとー

イメージ図（仮）



【共通項目】「孤立防止」、「防災」

実施項目

取り組み目標

①交流の場の機能の充実

交流の場に、見守り・発見・相談機能を持たせる。

②知り合うきっかけづくり

外とつながる機会が少なくなりがちの人が、地域とつながるしかけづくり

③きっかけづくりを応援する人材・資源の発掘

多様な人材や機関の協力を得る

知り合ってミーナ

①「輝きびと!」「活躍びと!」の発掘

まだ把握できていない潜在的な「輝きびと・活躍びと」を把握する

②自分ができることを活かしてボランティア活動・地域活動に参加できる機会づくり

港区の輝いている・活躍している「人」の増加

③みんなが先生!言葉と文化や生活を教える機会づくり

港区の輝ける・活躍できる「場(機会)」の増加

輝いてミーナ

①本気の連携による課題の解決

連携して解決した事例の増加

②相談先の仕組みづくりやPRの工夫

相談先につながる人数の増加

③地域における困りごとの顕在化と解決

地域住民や地域の多様な主体が参加して解決した事例の増加

解決してミーナ

①生活に関する学習の場づくり

生活に役立てられるような知識の学びの企画・実施

②お互いにわかり合う、学び合うための場づくり

世代や立場を超えて、お互いを理解し合えるような学びや交流の企画・実施

③学校での魅力ある福祉教育プログラムの実施

新規福祉教育プログラムメニューの作成及び普及啓発

④ボランティアの発掘・育成

企画内容に合った新規ボランティアの発掘・育成及びボランティアの継続的な活躍

学び合ってミーナ

「知り合ってミーナ（つながり・交流）」は、現在ある交流の場に、見守り・発見・相談機能を加えることで機能の充実を提案していきます。また、外とつながる機会が少なくなりがちの方が参加できる「地域とつながる交流の場づくり」を、多様な人材や機関の協力を得ながら取り組んでいきます。

主な課題

- ・ 孤立している人や家族が、いつでも相談できる場所が少ない
- ・ コミュニケーションが苦手な人への、支援方法が不足している
- ・ 同じ悩みを抱え、孤立している人たちがつながる機会が少ない

実施項目 ①

交流の場の機能の充実

取り組み目標

交流の場に、見守り・発見・相談機能を持たせる

交流の場の運営者が、より良い場づくりができるために、多様な視点を持ってもらえるよう取り組みます。交流の場にかかわる地域の協力者や専門職を増やしていくことを目指します。

具体的な事業案

- ・ 参加者同士で相談機能を高める工夫
- ・ よりよい交流の場にするための学習会
- ・ 地域住民や専門職との交流の機会作り
- ・ 信頼関係の輪を拡げる訪問活動

実施項目 ②

知り合うきっかけづくり

取り組み目標

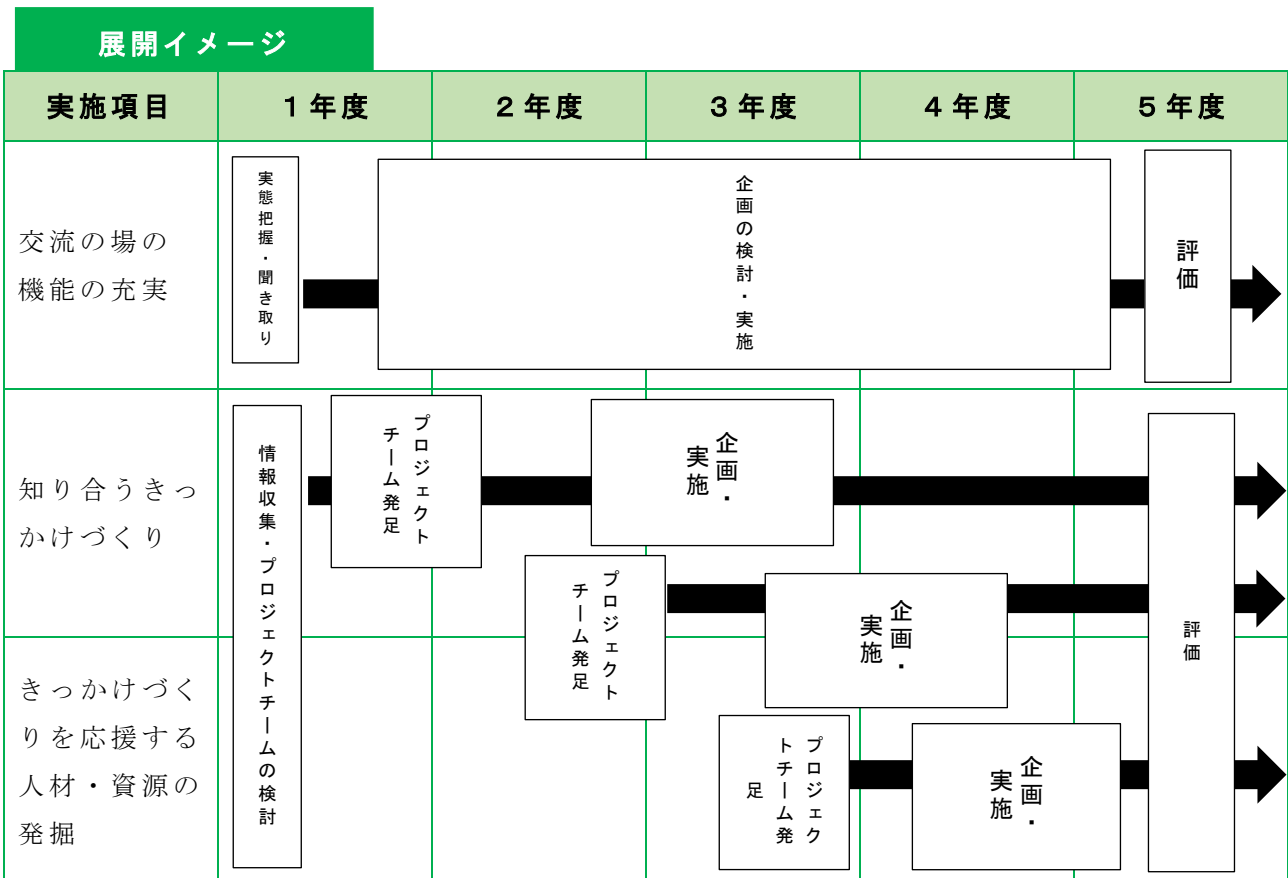
外とつながる機会が少なくなりがちの人が、地域とつながるしかりを作る

孤立している人やコミュニケーションが苦手な人、外とつながる機会が少なくなりがちの人が、地域とつながる機会を提案します。

具体的な事業案

- ・ 趣味や得意なこと、関心のあることで交流
- ・ 気軽に出かけられて相談できる場の提供
- ・ 食の提供を通じた、地域のだんらんの場づくり

実施項目 ③	きっかけづくりを応援する人材・資源の発掘
取り組み目標	多様な人材や機関の協力を得る
<p>孤立している人やコミュニケーションが苦手な人、外とつながる機会が少なくなりがちな人が、地域とつながるために、多様な人材や機関をまきこみます。</p>	
具体的な事業案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験者と当事者との交流、学習会 ・ ネット上の交流サイトの利用による情報発信 ・ 各関係機関と専門職との連携の啓発



「輝いてミーナ（活躍の場づくり）」では、これまで支援が必要なイメージがある外国籍の方、障がい者、高齢者、子どもなどで得意なことや強みがある人（「輝きびと・活躍びと」）を発掘し、活躍できる機会づくりに取り組みます。そして、共に住民として生活する中でお互いの理解が進み、より住みやすい町になるように、みんなが先生、教え役となって地域で活躍するための方策を検討します。

主な課題

- ・港区の輝ける人、活躍できる人で発掘できていない人がいる。
- ・地域とつながりが少ない人たちでも、普段行っていることや得意なことでボランティア活動や地域活動の参加につながるのに、そのような機会が少ない。
- ・外国籍の方、障がい者、高齢者、子ども、それぞれの言葉・文化や生活の違いがあっても互いを理解する機会が少ない。知ってほしいと思っても伝える機会が少ない。

実施項目 ①

「輝きびと・活躍びと」の発掘

取り組み目標

まだ把握できていない潜在的な「輝きびと・活躍びと」を把握する

得意なことや強みがあっても地域などとながっていない人について、様々な人や機関と連携し発掘するための取り組みを進めます。

具体的な事業案

- ・ケアマネジャーや福祉施設や関係機関、はつらつ長寿推進事業などと連携し発掘。
- ・広報紙、フリーペーパー、チラシなどによる紹介。

実施項目 ②

自分ができることを活かしてボランティア活動・地域活動に参加できる機会づくり

取り組み目標

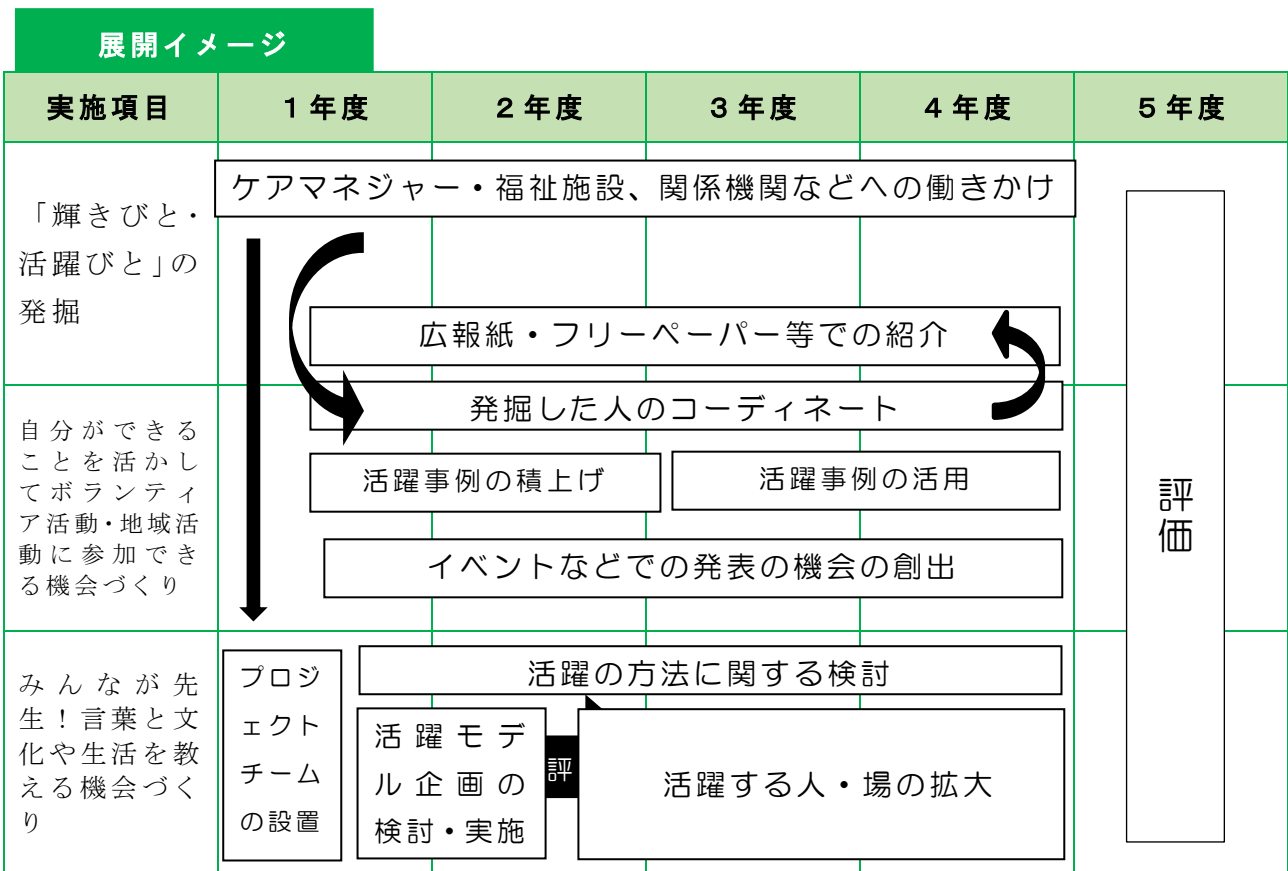
港区の「輝きびと・活躍びと」の増加

普段あまり地域に関わりがない人たちに、自身の趣味や特技を活かして、ボランティア活動や地域活動に関わってもらえる機会づくりに取り組みます。

具体的な事業案

- ・実際に活動できるように、地域活動などへのコーディネート。
- ・PR、イベントなどでの発表の機会づくり。

実施項目 ③	みんなが先生！言葉と文化や生活を教える機会づくり
取り組み目標	港区の輝ける・活躍できる「場（機会）」の増加
<p>外国籍の方、障がい者、高齢者、子ども、それぞれの言葉・文化や生活を教える先生役になって活躍できる機会づくりに取り組みます。</p>	
具体的な事業案	<ul style="list-style-type: none"> ・先生となって活躍する方法について検討する機会の設置。 ・輝きびと活躍びとの活動の機会づくり。



「解決してミーナ（生活課題*の解決）」は、住民（町内会長や民生委員、近隣住民など）や専門職（ケアマネジャー、施設など）、公的機関などが連携し、個別の生活課題を解決するための方法を検討するグループです。複合的な課題等の解決に関係機関が連携してあたる他、必要な支援につながるよう相談先の仕組みづくりや PR の工夫、地域における困りごとの顕在化および解決に取り組みます。

※生活課題…福祉、保健医療、住まい、就労及び教育、地域からの孤立、その他地域住民が日常生活を営む上で直面しているさまざまな困りごと、課題

主な課題

- 一機関だけで解決できない、8050*など複合的な課題を抱える世帯への支援
- 相談先や各機関の役割がわからず、支援につながらない
- 買い物やゴミ捨て、孤立など、身近な困りごとを抱える人が声をあげられない
- 身近な困りごとを解決する手段や社会資源が不十分

*8050…80代の親と、50代でひきこもりなどの課題を抱えた子どもの世帯

実施項目 ①

本気の連携による課題の解決

取り組み目標

連携して解決した事例の増加

複合的な課題を抱える世帯は、様々な問題が絡み合っていることから、単独の機関で課題を解決することは困難です。公的機関・専門職・地域等、各関係機関がそれぞれの専門性を持ち寄ったうえで、それぞれの専門性の枠を超えてチームとして連携し事例に対応することで、課題の解決を目指します。

具体的な事業案

- ・各相談機関の担当者や専門職が集まり、ケース検討を行う連携会議の実施
- ・公的機関や専門職と地域が連携してケース検討を行う地域ケア会議等の実施

実施項目 ②

相談先の仕組みづくりや PR の工夫

取り組み目標

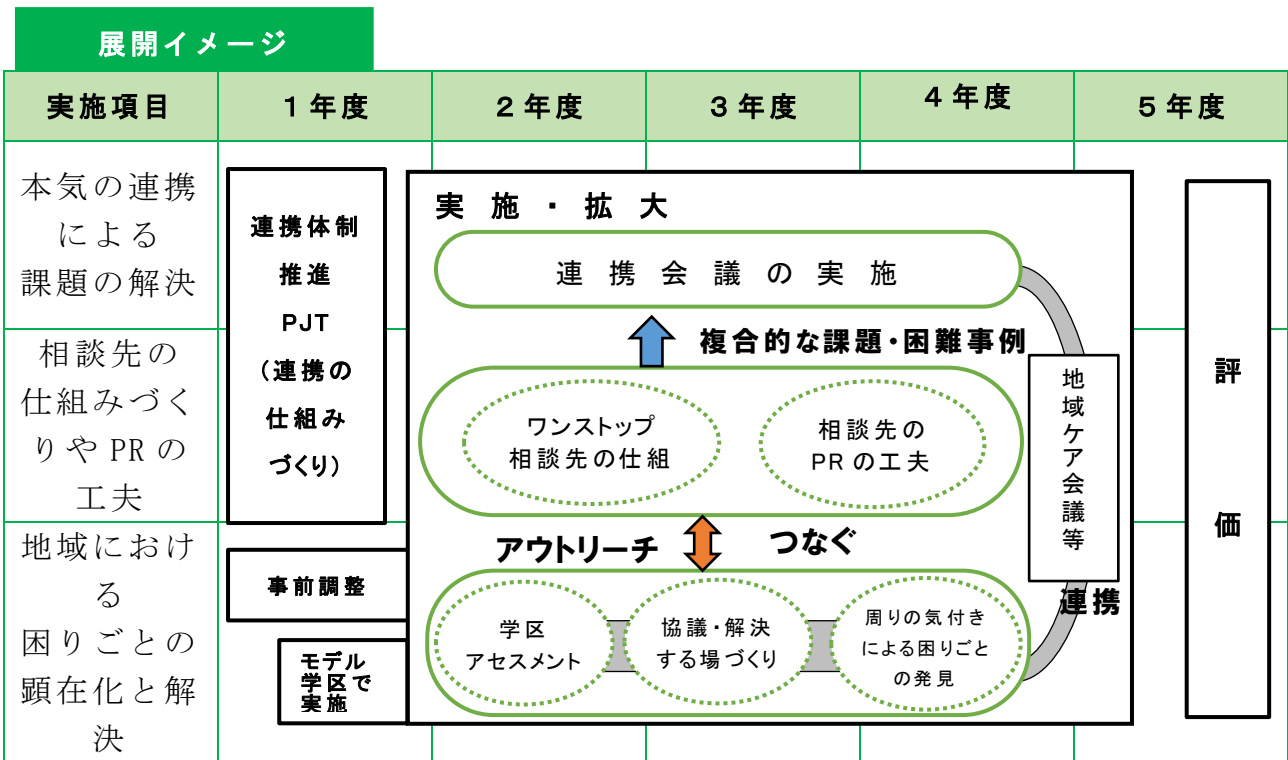
相談先につながる人数の増加

各相談先がそれぞれパンフレットなどで PR を行っていますが、相談先自体を知らない・相談先の役割がわからない・課題に該当する機関がないこと等が原因で、必要な人に支援が届いていないことがあります。困りごとを抱えた方が必要な支援につながるよう「困りごとがあれば何でもここに相談すればいい」というワンストップの相談先の仕組みづくりや、相談先にわかりやすくだとりつくための PR 方法の検討に取り組みます。

具体的な事業案

- ・とりあえず受け止めるワンストップの相談先の仕組みづくり
- ・本人や周りの人がわかりやすい相談先の PR の工夫

実施項目 ③	地域における困りごとの顕在化と解決
取り組み目標	地域住民や地域の多様な主体が参加して解決した事例の増加
<p>困りごとがあるにも関わらず、「知られたくない」などの気持ちから見えなくしてしまい、状態が悪化してから相談につながる場合があります。地域住民や地域の多様な主体（社会福祉法人、企業、店舗、ボランティア等）が参加する場をつくり、個別の困りごとを把握し解決するよう取り組みます。</p>	
具体的な事業案	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学区ごとの困りごとや解決のための資源などを把握する「学区アセスメント※」の実施 ・ 地域住民や地域の多様な主体が集まり困りごとの解決に向けて協議する場づくり ・ 仲間同士や近隣同士での見守りや周りの気付きによる困りごとの発見 <p>※学区アセスメント…地域住民等と専門職が学区の情報や気付きを持ち寄り、学区の資源や課題を見つめなおすプロセス</p>	



「学び合ってミーナ（風土づくり）」では、生活に役立つ知識を身につけることや世代や立場を超えた学びによる交流、新規プログラムによる学校での福祉教育の実施や各実施項目で活躍するボランティアの発掘・育成など、学びを通じた交流の場づくりに取り組みます。

主な課題

- 情報が届かず、知らなかったことが原因で生活課題を抱えてしまう世帯が多く存在する
- 世代や立場を超えた人々の交流の機会がまだまだ少ない
- 福祉教育をより拡げていくための福祉教育プログラムの選択肢が少ない

実施項目 ①

生活に関する学習の場づくり

取り組み目標

生活に役立てられるような知識の学びの企画・実施

日ごろの生活の中で役立てられるような、生活に関する身近なテーマを学ぶ企画の実施に取り組みます。

具体的な事業案

- ・ 子ども食堂の場などで、子どもを対象とした生活に関する学びの実施
- ・ 子育てやライフプランなどをテーマにした、大人を対象とした生活に関する学びの実施

実施項目 ②

お互いにわかり合う、学び合うための場づくり

取り組み目標

世代や立場を超えて、お互いを理解し合えるような学び

世代や立場の違いがあっても、学びによる交流を通してお互いのことを知り、地域で顔を合わせたらあいさつをし合えるような関係性を築ける企画を実施します。

具体的な事業案

- ・ 世代間交流のプログラム作成及び各学区での実施
- ・ 料理などの共同作業を通じた、障がいのある人もない人も集う交流・学びの場づくり

実施項目 ③	学校での魅力ある福祉教育プログラムの実施
取り組み目標	新規福祉教育プログラムメニューの作成及び普及啓発
時代に合った様々な新規福祉教育プログラムを作成します。また、そのプログラムを掲載した冊子をプログラム集として作成し、学校側へ積極的に提案していきます。	
具体的な事業案	<ul style="list-style-type: none"> ・新規福祉教育プログラムの作成 ・福祉教育プログラム集の作成 ・福祉教育研究会などの機会を活用した新規福祉教育プログラムのテーマの検討及び普及啓発

実施項目 ④	ボランティアの発掘・育成
取り組み目標	企画内容に合った新規ボランティアの発掘・育成及びボランティアの継続
得意なことを活かして継続的に活躍できるよう、各実施項目の担い手であるボランティアの発掘と育成に取り組みます。	
具体的な事業案	<ul style="list-style-type: none"> ・学区や専門機関の協力も得た上による、実施企画に合ったボランティアの発掘 ・福祉教育研究会などの機会を活用した新規福祉教育プログラムのテーマの検討及び普及啓発

展開イメージ						
実施項目	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度	
生活に関する学習の場づくり	及び事例の学習情報収集集 企画検討・実施	実施場所・プログラムの拡大				評価
お互いにわかり合う、学び合うための場づくり	チームプロジェクトをエクト 企画検討・実施	企画検討 実施	実施場所・プログラムの拡大 企画検討・実施	企画検討・実施		
学校での魅力ある福祉教育プログラムの実施	福社教育プログラムの実施 研究会の通研検し究	プログラム作成プロジェクト プログラム作成	プログラム集の作成	プログラム集の配布・周知 新規プログラム		
ボランティアの発掘・育成	検討企画に合わせたボランティアの発掘・育成 ①、②、③の企画の中で継続的な活躍					

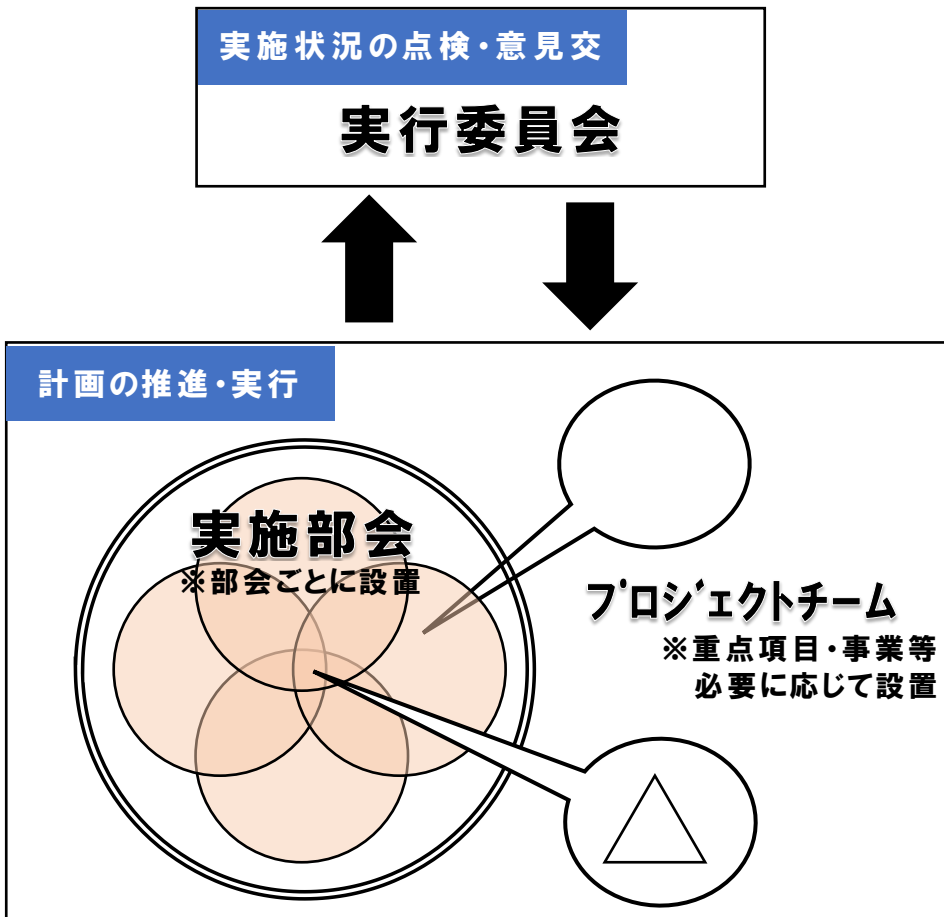
1 区民の参加を得て実行していく計画

第4次港区地域福祉活動計画では、区民の参加をえながら計画をすすめていきます。また、各組織には必要に応じて多様な機関・人に参画を呼び掛けます。

計画実行のための組織

	組織名	開催頻度	設置目的
1	実行委員会	年3回	計画の実施状況の点検・意見交換・評価・見直しをするために設置(※計画策定時の作業部会全体をベース)
2	実施部会		<u>G-PDCA サイクル</u> で計画を推進するために柱ごとに設置(※計画策定時に各ワーキンググループをベース)
3	プロジェクトチーム	適宜	重点項目等で必要に応じて設置

組織イメージ



2 G-PDCAサイクルで実行していく計画

G-PDCAサイクルとは事業活動における手法の一つでPlan（計画）→Do（実行）→Check（点検）→Action（改善）の4段階を繰り返すことによって、目標を達成することです。第4次港区地域福祉活動計画では、このG-PDCAサイクルに基づいて、計画を実行していきます。

●G-PDCA サイクルイメージ①

GOAL（めざす姿の実現）
を
見据えながら、単年度計画
を



●G-PDCA サイクルイメージ②

